

タイに一貫道が初めて伝来したのは 1950 年代のことで、当時は雲南からミャンマーを経由するルートと香港からのルートの 2 つのルートがあった。しかし、このとき伝わった一貫道はタイであまり伝播しなかった。1970 年代以降の台湾からの布教が、タイで広く一貫道が普及する契機となった。2009 年の資料によると、現在 26 の「組」がタイに宣教に来ており、累計 7,000 宇以上の仏堂を全国に建設した。すでに 76 県すべてに仏堂が建立され、毎年新たに入信する人は 20 万人に及ぶ。

しかし、同じ「一貫道」と言っても、異なる「組」によって、タイに伝わった時期も作法もそれぞれ違うので、一括りにすることはできない。さらに、同じ「組」の中でも、異なるリーダー(一貫道では「点伝師」と呼ばれる、亡くなった教祖の代わりに宣教などを行う者)によって設置された仏堂とそこに所属している信徒の間にも、それぞれいささかの区別がある。本報告書では、夏の調査で訪れた二つの「組」の仏堂を取り上げ、その発展の違いを示す。

T 組は現在バンコクとチェンマイの 2 箇所に総堂を分け、財団(Muunlanithi)として登録し、伝道などの教務を行っている。バンコクの総堂は主に台湾北部にある仏堂の指導を受けている一方、チェンマイの総堂は主に台湾南部の都市である高雄の仏堂から指導を受けている。2 か月ごとに台湾から点伝師を受け入れ、教務と財団の管理について指導を仰いでいる。

今回筆者はチェンマイの総堂で資料収集を行った。平日の仏堂に居るのは、台湾からの点伝師 1 人と、ミャンマーから来て雑務を担当している中華系の女性 1 人のみである。時々信徒が訪れるが、仏堂に 5 人以上が集うことは極めて稀である。週間行事の掲示板を見ると、金曜日は神様への供物(果物)奉納の練習、土曜日は説法、日曜日は新しい信徒の入信儀礼と書いてあるものの、実際に行っているのは土曜日の説法のみであった。さらに、筆者が訪れた日の説法に集まった信徒数は約 10 人と非常に少なかった。

どのように信徒数を伸ばすのかが多くの信徒の悩みとなっている。チェンマイの総堂を中心に、信徒の個人的な人間関係や各地を訪れ知らない人たちにも布教を行うなどの方法で、タイ北部のいくつかの場所に仏堂を設け、信徒を獲得したが、場所によっては 1 つの仏堂を拝する信徒数が 1, 2 家族と非常に少

なく、信徒が亡くなった後に仏堂も無くなるケースをしばしば耳にする。チェンマイの信徒には、華人に加え、他の民族の信徒も何人かいる。国民党軍の華人、雲南から流入した華人、バンコク生まれでチェンマイに転入した潮州系華人、タイ人、カレン族などの中にも一貫道を信仰する者がいる。

チェンマイでは、去年から2人の信徒を現地の点伝師として任命している。1人はカレン族で、チェンマイのマッサージ学校でマッサージの講師を務めている。この点伝師は、過去数回にわたり、学校でマッサージを勉強している外国人の学生を呼び、仏堂で入信させている。これに反対するタイ人信徒も少なくないが、台湾からの点伝師はこれも縁であるとして、入信儀礼を行った。もう1人の点伝師は雲南系の華人で、チェンマイとチェンライの中間で工場を営んでいる。工場で働いているワ一族の労働者を入信させたが、彼らに中国語を教え教義を理解させるのは簡単ではない。タイで現地の点伝師を任命する、という新たな試みは信徒数増加に貢献するのか、これからの展開を注目すべきだろうか。

L組は1980年に初めてバンコクの郊外で仏堂を建立してから、タイ全国で60宇以上の公共仏堂を建て、1,000以上の家庭仏堂があると推算される。全国を10区域（バンコク、中部、東部、西部、上東北部、下東北部、上北部、下北部、上南部、下南部）に分け、それぞれの地域の教務に加え地域間交流を活発に行い、発展し続けている組である。

バンコク以外の仏堂では、普段から数人信徒がおり、年中行事と毎日の供物奉納に加え、入信儀礼と教義の教授も不定期で行われている。バンコク以外の仏堂には点伝師が駐在していないため、入信儀礼は主にバンコクの点伝師がその地域を訪れて行う。教義の教授は、各地で「講師」になった信徒が、点伝師の承認を得て、各仏堂不定期的に行う。それ以外に、3日間連続して行われる「法会」という教育行事を年に数回行っており、一般に区域内の各地から新米信徒を集め、バンコクと当該区域の点伝師、講師、そしてベテランの信徒に加えて海外（主に台湾、マレーシア、シンガポール）から応援に来た信徒と一致協力して教義を教える。

各区域で行う行事以外に、バンコクの中心仏堂で大きなイベントや教育行事を行う際には、各区域から数百から千人規模の信徒が集まる盛大なイベントになる。こうしたイベントや教育行事は一般的に2日間から3日間行われ、教義や経典のさらなる理解が目指される。

今夏筆者は、バンコクの1つの仏堂と下東北部区域の4つの仏堂を訪れた。

最近では子供の道徳教育に関する新しい計画ができ、各地で計画の実施主体となる人材を養成したり、計画の説明をしたりしている。下東北部では、ナコーンパノム県、ムックダーハーン県の仏堂が計画の先行実施地に選ばれ、参加する子供たちと保護者たちに対し説明会を行っていた。教師は下東北部区域の各県の信徒で、道徳教育は毎月行う予定である。この計画は、子供たちに道徳を



保する目的もある。



教える傍ら、次世代の若い信徒を確



T組のチェンマイでの仏堂



T組のチェンマイでの仏堂

ムックダーハーン県の仏堂でL組の子供向けの教育活動